

日本産業衛生学会 近畿地方会ニュース

発行所 日本産業衛生学会近畿地方会(事務局)
〒634-8521 奈良県橿原市四条町840
奈良県立医科大学地域健康医学教室内
専用TEL・FAX.0744-22-1801
発行責任者・車谷典男(地方会会長)
<http://jsohkink.umin.jp>

第60回近畿地方会総会および特別講演シンポジウムのご案内

日本産業衛生学会近畿地方会 会長 車谷典男

日本産業衛生学会近畿地方会総会を開催いたします。会員の多数のご参加をお待ちしています。

日 時：平成24年6月16日(土)13:00-17:00

会 場：大阪市立大学医学部学舎4階大講堂

＜地方会総会＞(13:00～13:50)

- (1)平成23年度事業報告および平成23年度決算報告
- (2)平成24年度事業計画(案)および平成24年度予算(案)
- (3)その他

＜特別講演・シンポジウム＞(14:00～17:00)

特別講演・シンポジウムの企画について

みずほフィナンシャルグループ
大阪健康開発センター
廣部 一彦

わが国の産業保健現場における予防医学的な観点からの大きなテーマの一つが、動脈硬化性疾患対策です。1980年代のバブル経済により長時間労働が常態化する中で、いわゆる脳卒中、心筋梗塞などの心血管疾患による過労死が大きな社会問題となり、「Karosi」が世界でも通用する言葉になってから四半世紀が経ちます。

厚生労働省(労働省)は労働安全衛生規則を改正し、1989年に健康診断項目に「コレステロール、トリグリセライドと心電図など」を加え、更に1998年に「HDLコレステロールと血糖検査」を追加しました。これにより、毎年全ての事業所でこれらの動脈硬化性疾患の危険因子が測定され、又心電図のチェックもなされ、そのデータが蓄積されてきました。そしてこれらのデータを活かした疫学研究も実施されるようになりました。

その代表的なものが、大規模事業所の労働者を対象としたわが国初の全国規模の多施設共同疫学調査である3Mスタディ(心筋梗塞発症率調査)やQQプロジェクト(在職死亡調査)です。これらの調査研究では、同時代の地域住民や中小零細事業所も含めた全労働者と比較して、心筋梗塞の発症率や死亡率、脳卒中の死亡率が約半分であることが判明しています。これらの結果は、参加した大規模事業所における約98%という高い定期健診受診率とその後の保健指導・健康管理の有効性を示唆するものと考えられています。また、3Mスタディにおいては脂質異常、喫煙、高血圧、糖尿病などが有意な危険因子であり、今やわが国の40歳代、50歳代の働く世代の男性においては、その冠危険因子はまさに欧米型であることが判明しました。そしてこの結果より、特に勤労世代の男性に対しては、我が国においても欧米と同様の冠動脈疾患危険因子に対する対策を講ずる事が重要になってきたと考えられています。

これらのこともふまえて、今回の特別講演では滋賀医大の上島弘嗣先生に、わが国の心血管疾患の疫学とともに、そのリスクファクターについてご講演いただき、産業保健の立場から、働く世代の動脈硬化性疾患の予防対策につながるお話をお聞きできるものと思います。

その後のシンポジウムでは、過労死にもつながる心血管疾患の予防対策と安全配慮義務について、産業保健現場の専属産業医と産業看護職の取り組みをお話いただき、また法的な立場から弁護士の方の山田長伸先生に最近の判例などもふまえて解説いただく予定です。そして総合討論では、参加者とともにざっくばらんな意見交換をしたいと考えています。ご参加の先生方も含めて活発なご議論をいただき、有意義なシンポジウムになりますよう宜しくご協力の程お願い申し上げます。

特別講演(14:00-15:00)

座長：車谷典男(奈良県立医科大学地域健康医学教室教授)

講師：上島弘嗣(滋賀医大生活習慣病予防センター特任教授)

演題：「わが国の心血管疾患の疫学とリスクファクターー働く世代と高齢者はどう違うかー」

シンポジウム(15:00-17:00)

テーマ「職場における心血管疾患(過労死)予防対策と安全配慮義務」

座長：鈴木純子(日本アイ・ビー・エム(株)インテグレート・ヘルスサービス 大阪健康支援センター)
廣部一彦(みずほフィナンシャルグループ(株)大阪健康開発センター)

シンポジスト：

産業医の立場から：小林麻美
(パナソニック(株)AVCネットワーク社産業医グループ長)

産業看護職の立場から：中村千賀
(キャノンマーケティングジャパン(株)保健師)

弁護士の立場から：山田長伸
(山田長伸法律事務所 弁護士)

※産業医単位取得希望者はP12をご参照下さい。

平成23年度近畿地方会収支報告および平成24年度予算（案）

1. 収入の部

科 目	23年度予算額	23年度決算額	24年度予算額	摘要
(1) 会費収入	2,200,000	2,459,000	2,200,000	
正会員会費収入	1,900,000	2,050,000	0	2,000円×1,025人
特別会員会費収入	300,000	409,000	300,000	総会特別講演等当日参加費
広報・通信費収入			1,900,000	2,000円×950人
(2) 助成金収入	1,890,000	1,839,000	1,890,000	
日本産業衛生学会助成金収入	1,890,000	1,839,000	1,890,000	1,500円×1,260人
本部選挙交付金	0	0	0	
(3) 事業収入	150,000	180,000	180,000	
広告料収入	150,000	180,000	180,000	
(4) その他収入	500	524	400,500	
受取利息	500	524	500	
役員選挙積立金より	0	0	400,000	
当期収入合計	4,240,500	4,478,524	4,670,500	
前期繰越収支差額	4,373,886	4,373,886	3,899,487	
収 入 合 計	8,614,386	8,852,410	8,569,987	

2. 支出の部

科 目	23年度予算額	23年度決算額	24年度予算額	
(1) 事業費	3,550,000	2,790,491	3,450,000	
①機関誌費	1,300,000	1,094,715	1,300,000	
印刷費	500,000	493,777	500,000	
広報活動費	150,000	0	150,000	
通信運搬費	650,000	600,938	650,000	
②助成金支出	1,400,000	1,039,351	1,400,000	
近畿産衛学会開催助成金支出	500,000	439,351	500,000	
産業医部会助成金支出	150,000	150,000	150,000	
産業看護部会助成金支出	150,000	150,000	150,000	
産業技術部会助成金支出	150,000	150,000	150,000	
研究会補助金	300,000	150,000	300,000	
研修会補助金	150,000	0	150,000	
③例会事業費	750,000	556,425	750,000	
地方会総会開催費	500,000	476,425	500,000	
学術担当費	250,000	80,000	250,000	
④調査研究事業費	100,000	100,000	0	23年度産業看護職実態調査
(2) 管理費	1,720,000	662,388	1,920,000	
①運営費	1,220,000	207,890	1,320,000	
幹事、代議員会費	120,000	104,490	120,000	
広報渉外費	1,000,000	52,500	300,000	
役員改選費	0	0	800,000	
運営雑費	100,000	50,900	100,000	
②事務費	500,000	454,498	600,000	
事務局費合計	400,000	400,000	500,000	
備品	0	0	0	
消耗品費	100,000	54,498	100,000	
(3) その他支出	400,000	400,028	0	
役員改選積立金支出	400,000	400,028	0	24年度実施予定の積立金
(4) 事業積立金	1,000,000	1,000,016	1,000,000	
日本産業衛生学会開催準備金	500,000	500,008	500,000	
産業医・産業看護全国協議会開催準備金	500,000	500,008	500,000	
(5) 予備費	500,000	100,000	500,000	23年度事務局費補填
当期支出合計	7,170,000	4,952,923	6,870,000	
当期収支差額	-2,929,500	-474,399	-2,199,500	
次期繰越収支差額	1,444,386	3,899,487	1,699,987	
支 出 合 計	8,614,386	8,852,410	8,569,987	

財産目録 (1)ノートパソコン・デル1台 (2)FAX(0744-22-1801) Panasonic 1台
23年度の会計年度は平成23年3月1日から平成 24年2月29日まで。

平成23年度近畿地方会事業報告(案)

1. 第59回近畿地方会総会および基調講演・シンポジウム

日 時：平成23年 6 月18日(土) 13:00～17:00

場 所：大阪市立大学医学部学舎

I. 総会 (13:00～13:50)

5月15日現在の地方会員数は1,319名、出席者77名(委任状424名)で、会員の5分の1以上の出席により総会は成立(地方会会則第18条)。平成22年の事業報告・収支決算報告と平成23年度の事業計画案・収支予算案を承認。

II. 学術講演会

主 題：若年労働者におけるメンタルヘルス不調を考える

1) 特別講演 (14:00～15:30)

座長：圓藤吟史(大阪市立大学大学院教授)

演者：①辻井農亜(近畿大学医学部精神神経科学教室講師)「発達障害とどう向きあうか」、②夏目誠(大阪樟蔭女子大学大学院教授)「若年労働者におけるメンタルヘルス不調のポイントと考え方」

2) シンポジウム (15:30～17:00)

「職域における若年労働者のメンタルヘルス対策」

座長：伊藤正人(パナソニック健康保険組合健康管理センター副所長)、長澤孝子(積水化学工業株式会社滋賀栗東工場保健師)

演者：①赤築綾子(三井化学大阪工場健康管理室産業医)「産業医の立場から」、②玉木登志枝(ダイハツ工業人事総務部安全衛生保健室保健師)「産業看護職の立場から」

コメンテーター：辻井農亜、夏目誠

2. 第51回近畿産業衛生学会

(参加者202名・うち学会員152名)

日 時：平成23年11月 5 日(土)

場 所：奈良県文化会館(奈良市登大路6-2)

学会長：夏目誠(大阪樟蔭女子大学大学院教授)

1) 一般講演35題

2) 特別講演「うつ状態を訴える多様な職員への対応」

座長：車谷典男(日本産業衛生学会近畿地方会会長)

講師：尾崎紀夫(名古屋大学大学院医学系研究科)

3) 基調講演「事例から知るワーキングウーマンのメンタルヘルス」

座長：廣部一彦(みずほフィナンシャル大阪健康開発センター)

演者：夏目誠(大阪樟蔭女子大学大学院)

4) シンポジウム「ワーキングウーマンのメンタルヘルスの現状と課題、そして対応」

座長：中西一郎(東レ株式会社産業医)、鈴木純子(日本アイビーエムKK産業看護職)

演者：①関根友実(元朝日放送アナウンサー・大阪樟蔭女子大学大学院)「15年以上働き続けている女性アナウンサーのケースなど」、②森村美奈(大阪市立大学大学院医学研究科女性診療科・総合診療センター)「月経関連症状とそれが職場にもたらす影響」、③久保とし子(久保労働衛生コンサルタント事務所)「産業医の立場から」、④米山貴子((独)労働者福

祉機構大阪労災病院勤労者予防医療センター)「産業看護職の立場から捉えるワーキングウーマンのメンタルヘルス支援」

5) 第一回近畿産業衛生学会優秀演題賞表彰：平田真以子氏(みずほフィナンシャルグループ大阪健康開発センター)、藤井由希子氏(京都大学大学院環境衛生学分野)

3. 代議員会

第1回 平成23年 6 月18日(土)

大阪市立大学医学部学舎

第2回 平成23年11月 5 日(土)

奈良県文化会館

4. 幹事会

第1回 平成23年 6 月18日(土)

大阪市立大学医学部学舎

第2回 平成23年 9 月 3 日(土)

大阪市立大学医学部学舎

第3回 平成23年11月 5 日(土)

奈良県文化会館

第4回 平成24年 2 月13日(月)

大阪市立大学医学部学舎

5. 広報活動

近畿地方会ニュースを年4回(86号～89号)発行した。毎号12頁から構成し、全地方会員と関係者に郵送した。近畿地方会のホームページをほぼ月一回の頻度で更新した。

6. 近畿産業医部会

(1) 第16回近畿産業医部会研修会

(参加者141名・うち学会員34名)

日 時：平成23年 9 月 3 日(土) 14:00～17:00

会 場：大阪市立大学医学部学舎 4 階大講義室

実行委員長：森岡郁晴

テーマ：働く人々への健康支援

1) 教育講演「労働衛生の現状と課題－最近の法改正を含めて－」

座 長：山田誠二(パナソニック健康保険組合産業保健センター所長)

講 師：宮崎龍雄(和歌山労働基準監督署長)

2) シンポジウム「特定保健指導がもたらした変化」

座 長：森岡郁晴(和歌山医大保健看護学部教授)、阪本義邦(パナソニック健康保険組合健康開発センター所長)

シンポジスト

①阪本義邦(パナソニック健康保険組合)、②岩根幹能(和歌山健康センター)、③原共乃(近畿労働金庫)、④井出陽子(京都工場保健会)

(2) ケースカンファレンス研修会

職場診断を計5回(平成23年5月14日・7月9日・8月13日・平成24年1月21日・2月18日)、職場巡視を計4回(平成23年9月10日・10月6日・11月12日・12月10日)、メンタルヘルスを計5回(平成23年12月12日・12月21日・平成24年1月14日・2月1日・2月29日)にそれぞれ開催し、各々

延べ140名、26名、82名の参加があった。

7. 近畿産業看護部会

I. 定例研修会

1) 第1回研修会

日 時：平成23年7月9日（土）13:30～16:30
会 場：エル大阪本館7階709会議室
テーマ：「労働安全衛生マネジメントと看護職の役割」

講 師：島村紘二（島村安全衛生研究所）
参加人員：95名（学会員82名・非学会員13名）

2) 第2回定例研修会

日 時：平成23年12月3日（土）13:30～16:00
会 場：エル大阪本館6階大会議室
テーマ：企業のリスクマネジメントに産業看護職の専門性をどのように発揮するのかわり過重労働対策を通して考える

基調講演：森岡郁晴（和歌山医大保健看護学部教授）
参加人員：95名（学会員73名・非学会員22名）

II. 日本産業衛生学会認定産業看護職継続教育基礎コース（共催：大阪・京都・滋賀・兵庫・和歌山・奈良の各産業保健推進センター、労災病院勤労者予防医療センター）

時 期：平成22年9月25日～同23年7月16日計10回（本年度は3月26日からの計5回）

受講者：47名（うち看護師登録合格者20名）

III. 幹事会

平成23年4月16日、7月9日、10月29日、12月/3日、平成24年1月/14日にそれぞれ開催

8. 近畿産業衛生技術部会総会及び講演会

日 時：平成23年10月22日（土）13:00～17:00
会 場：ユーズ・ツウ（大阪市内の貸会議室）
テーマ：労働衛生分野における国際協力と期待と皮膚の老化とケア

特別講演：坂本哲夫（元資生堂研究員）
座 長：宮下和久（和歌山医大衛生学教授）

9. 研究会活動

(1) 産業精神衛生研究会

第1回平成23年6月20日（月）18:30～21:00
エル大阪

主題：パーソナリティー障害の職場における気づきと対応

座長：井上幸紀（大阪市大大学院准教授）

講演：夏目誠（大阪樟蔭女子大学大学院教授・精神科医）

シンポジウム

座長：夏目誠

演者：廣部一彦（みずほファイナンシャルグループ大阪健康開発センター所長）、大脇多美代（産業衛生学会地方会産業看護部会長）

第2回平成23年11月14日（月）18:30～21:00
エル大阪

主題：職場における発達障害の理解と対応—アスペルガーを中心に

座長：丸山総一郎（神戸親和女子大・大学院教授）

演者：夏目誠「精神科医の視点から—事例を中心に」
谷原 弘之（叡林精神医学研究所岡EAPカウンセリングルーム臨床心理士）「心理の

視点から」

(2) 職業性筋骨格系障害研究会：開催せず

(3) じん肺研究会：開催せず

(4) 労働衛生法制度研究会：休会中

(5) 近畿臨床産業医学フォーラム

第10回（GSK株式会社共催）

日時：平成23年9月7日

場所：ホテルモントレ大阪

テーマ：運転業務と産業医学

第11回（MSD株式会社共催）

日時：平成24年2月8日

場所：ホテルグランヴィア京都

特別講演：「脂質異常症について」廣部一彦（みずほFG大阪健康開発センター所長）

10. 近畿産業衛生学会優秀演題賞の設置

11. 第一回近畿産業衛生学会優秀演題賞の表彰

（本文中敬称略・肩書等は原本掲載時通り）

第59回近畿地方会総会会場地図



代議員の皆さまへ

総会の前に代議員会を開催いたします。代議員の方はご出席下さい。

時間：12:10～12:50

場所：大阪市立大学医学部学舎4階 小講義室2

◎本ニュースに同封の「総会および代議員会出欠確認」

用のハガキを6月5日（火）必着でご返送下さい。

昼食の準備はしておりませんので、予め済ませてご来場下さい。

※幹事の皆さまへ

10:50～12:00に幹事会を開催いたしますのでご予定おき下さい。

平成24年度近畿地方会事業計画（案）

1. 第60回近畿地方会総会および学術講演会

日 時：平成24年 6 月16日(土) 13:00～17:00

場 所：大阪市立大学医学部学舎

I. 地方会総会

II. 学術講演会

2. 第52回近畿産業衛生学会

日 時：平成24年11月17日(土)

場 所：和歌山県立医科大学保健看護学部（和歌山市三葛580）

学会長：森岡郁晴（和歌山医大保健看護学部教授）

I. 一般講演

II. 特別講演

III. シンポジウム

3. 代議員会

第1回平成24年 6 月16日(土) 大阪市立大学医学部学舎

第2回平成24年11月17日(土) 和歌山医大保健看護学部

4. 幹事会

第1回平成24年 6 月16日(土) 大阪市立大学医学部学舎

第2回平成24年 8 月 大阪市立大学医学部学舎

第3回平成24年11月17日(土) 和歌山医大保健看護学部

第4回平成25年 2 月 大阪市立大学医学部学舎

5. 広報活動

近畿地方会ニュースを年4回（90号～93号）発行予定。地方会ホームページを月1回更新し、地方会会員に迅速に情報を提供する。

6. 近畿産業医部会

(1) 第17回近畿産業医部会研修会

日時：平成24年 9 月 8 日(土) 14:00～17:00

会場：大阪市大医学部校舎

実行委員長：豊川彰博

主題：メンタルヘルス対策－新たな試み－

基調講演：健康診断におけるストレスチェック

講師 岡田邦夫（大阪ガス(株)人事部健康開発センター）

座長 鍵谷俊文（全日空(株)勤労部大阪健康管理センター）

シンポジウム：産業現場におけるストレスチェックの実際－現状と課題－

座長 萩原聡（三菱電機(株)伊丹製作所総務部健康増進センター）

豊川彰博（大阪ガス(株)人事部健康開発センター）

演者：森口次郎（財団法人京都工場保健会）

鍵本伸明先生（なんば鍵本クリニック）

出雲谷恭子（大阪市総務局人事部）

(2) ケースカンファレンス研修会（共催：大阪府医師会、大阪産業保健推進センター）

職場診断5回（6月30日・7月7日・8月11日・平成25年1月19日・2月16日）、産業医職場診断4回（9月15日・10月11日・11月10日・12月8日）、メンタルヘルス5回（日程未定）を予定

7. 近畿産業看護部会

I. 定例研修会

第一回

日 時：平成24年 7 月21日(土) 13:30～16:30

会 場：エルおおさか南館南ホール

主 題：産業現場における保健師・看護師のリスクコントロール

講 師：三柴丈典（近畿大学法学部教授）

第二回

日 時：平成24年12月

会 場：エルおおさか

主 題：すぐに使える統計、データの活用方法

講 師：未定

II. 幹事会：年4回を予定

4月28日(土)13:00-17:00 エルおおさか6階研修室4

7月21日(土)13:00-17:00 エルおおさか南館75会議室

8. 近畿産業衛生技術部会

総会・講演会を開催する

9. 研究会活動

(1) 産業精神衛生研究会

(2) 職業性筋骨格系障害研究会：2回開催予定

(3) じん肺研究会：1回開催予定

(4) 労働衛生法制度研究会：休会中

(5) 近畿臨床産業医学フォーラム：2回開催を予定

10. 協賛事業

第14回海外勤務者健康管理研修会（共催：(社)大阪府医師会、大阪産業保健推進センター）平成24年 8 月25日・野村カンファレンスプラザ御堂筋

11. 近畿産業衛生学会優秀演題賞の選考

12. 代議員・地方会役員選挙の実施

（本文中敬称略）

会員の声



産業医の役割（K協会事件 を読んで考える）

パナソニック(株)アプライアンス社
草津北・大東健康管理室

辰巳 佳次

職場の担当者から、自律神経失調症で4ヶ月前から休んでいる職員から診断書が出て、あと2ヶ月ぐらいで出勤できそうだと言ってきているので、一度会ってもらえないか、と嘱託産業医に相談があった。本人がまだ職場の人間とは会いたくないというので、担当者と一緒に職場近くの喫茶店で会った。話をしたが、本人は余りはっきりとした話をせず、体調や日常生活、受診状況がいまいちはっきりしないが、見た目の様子は悪くは無いようだ。本人と少し話した。日常的にありうるケースだが、どのように対応されるだろうか。

日常と異なったのは、後日、面談が原因で職場復帰が遅れたとして、この職員から損害賠償と慰謝料を求めて訴えられ、地裁では、産業医が敗訴したという点である。産業医が敗訴した、昨年秋の大阪市K協会事件である。判決文を読んだが、産業医としては、しっかりと来ない点が多々ある。たとえば、うつ病患者に対する「激励」・自助努力の問題である。

判決には、「安易な激励や、圧迫的な言動、患者を突き放して自助努力を促すような言動により、患者の病状が悪化する危険性が高いことを知り、そのような言動を避ける

ことが合理的に期待される」とある。

このケースは、復職を検討する病期に入っている。治療導入期では、「「病氣」であって単なる怠けでない」、「できるだけ早く休養にはいるのが有効」とする笠原嘉先生の「小精神療法7か条」が大事だ。しかし、その笠原先生自身が、「慢性化しても医師が休息を延々と指示続ける弊害」として、「急性期が大体終わったと思われるときの小精神療法」、すなわち「心理的”休息”中心から”社会復帰”に重点を移す」必要を強調されている（「診療室での軽うつ病の臨床研究」）。

復職への見通しが立った、ということは、社会復帰への準備をしていると期待される。本人にはまだ「おっくう感」が残っているだろうけれども、主治医からの「うつ病は必ず治るはずの病氣」であるとの励ましを希望として、一進一退しながらも自分の力で行動を開始しなければ、いつまでもたっても回復は難しい。産業医の役割は、その段階での支援であり、時には本人の自助努力を促すことも必要となる。もしそれが無理ならば、復職準備がまだ早すぎるといえる。本人の焦りに早く気づいて、主治医の役割として再療養を勧めていただけるものと、産業医としては期待したい。

病期を考えることなく、うつ病患者ならば「激励は禁忌である、自助努力を求めてはだめ」と決め付ける事は、逆に患者の本来持っている自己回復力を削ぐ発想のように感じる。患者本人の利益にも反するのではないか。それは、言い過ぎだろうか。

（なお、個人の考えであり、産業医業務で関わってきた、また現在関わっている企業の方針を示すものではありません）



「グローバルズムと ミックスジュース」

長瀬産業(株)人事総務部・健康推進室

岩本 朝梨

弊社は今年で創業180年を迎える、江戸時代から続く化学品専門商社です。創業は京都西陣で紅花を取扱い、その後、大阪に移り、現在はここ西区新町に大阪本社を構えています。近年ではグローバル化が進み、世界各国に現地法人、生産拠点が有り、海外駐在員も多数抱えております。グローバル化でどの企業もこれまでに以上に社員の健康管理が求められていることと思いますが、弊社も御多分に漏れず同様の状況となっています。

その一方で、脈々と続く伝統も守り続けています。1928年に竣工された大阪本社本館ビルは現在も引き続き実際に使用されています（夏暑く、冬寒いといううちわ・膝掛けは必須です）。近隣のレトロビルと共に界隈の名物の一つと言えるかもしれません。また社風は、社員一人一人を大切にし、情に厚く、大阪商人のDNAが脈々と受け継がれているように思います。

建物や社風と並んでもう一つ、名物と言えるものが密かに存在します。それは「ミックスジュース」です。商談、打ち合わせ時に、社内喫茶室に注文するコーヒーや紅茶のメニューの中に「ミックスジュース」が含まれています。しかもこれはパックに入ったジュースをコップに注ぐのではなく、その場で毎回牛乳とフルーツをミキサーにかけて作る、という手の込みようです。私の在籍する健康推進室は喫茶室の隣、応接室の前に位置し、夏になると頻繁に「ミックスジュース」を作るミキサーの音が聞こえてきます。物珍しさからか、案外注文する人が多いようです。

大阪本社のソウルフードの一つともいえる「ミックスジュース」。これが実は弊社社員の健康を支えているのでは、と勝手にアセスメントしています。「ミックスジュース」を注文するたびに「大阪本社に帰ってきた」と感じる安心感は、グローバル化の中で日々闘う社員にとって心のオアシスになっているのではないのでしょうか。グローバル化に合わせた労働衛生対策と同時に、これまで以上にローカルなサポートを意識する必要があるはずと勝手に確信をもっており、もしもミックスジュースがメニューから消える場合には衛生委員会での討議にかけようと思っています（笑）。

会員の声



近畿技術部会の発足10年

大阪労働衛生総合センター
河合 俊夫

2002年5月の総会で日本産業衛生学会近畿地方会産業衛生部会が発足しました。簡略名は近畿技術部会と言うことにしました。地区でも技術部会の活躍が寄り幅広くできるように、地区部会を作ろうとする意見がだされ有志が集まり地方会に要望し、発足しました。

活動は産業衛生技術に関する研究会の開催、調査研究、資料の収集および編集、その他の技術目的達成に必要なことを行います。そして会員の皆様に公表して意見を聞こうとしています。簡単に言い替えると技術に関するグローバルな（グローバルとローカルを合わせた言葉）活動を行います。この発足の有志は、人間

工学をしている人、作業環境をしている人、生体試料分析をしている人、大学または研究室で一つの事柄を研究している人もいます。部会への参加は、産業衛生学会員で技術に興味があり、共同して技術の発展に尽くそうとする研究者はすべて技術部会会員になることができますので、現在産業医として活動している人、産業看護をしている人も技術に関心のある人すべてが会員となることができます。

現近畿地方会には、先輩として活躍している産業医部会、看護部会があります。この二つの先輩には資格制度がありますが、技術部会には現在そのような制度はありません。言い替えれば産業衛生のNGO活動です。すべての労働者が健康で快適に働くことができる用にする根本的な対策は、有害物質の曝露を無くす、無理な作業姿勢や作業形態を無くすことです。これらを的確に評価する技術、改善技術を研究していく役割をこの技術部会が行います。

技術部会に興味ある方、また応援してやろうと思われの方はご連絡下さい。



私たちの教室を紹介します

～キーワードは、フィールド・人間工学、そして多種多様!～

滋賀医科大学・医学部・
社会医学講座・衛生学部門
北原 照代

私たちの教室は、昭和52年に滋賀医科大学・予防医学講座としてスタートして以来、労働衛生・環境衛生・地域医療を中心に調査研究を行ってきました。医学教育では、医学概論および公衆衛生学・社会医学フィールド実習を担当し、また、障害がある医学生の修学支援にも中心的役割を果たしています。

主な研究手法は、疫学調査、生理学的指標を用いた実験研究、フィールド調査です。中でも、「まずは現場を知る」フィールド重視の姿勢は、過去に教室を主宰された渡部眞也先生（S52～H8）、西山勝夫先生（H8～H20）から現在まで一貫しています。医学教育においても、社会医学フィールド実習に積極的に取り組み、学生とともに議論しながら調査研究を進めるスタイルを維持しています。

第二の特徴として、小さい規模の教室の割には多様な研究テーマに取り組んでいます。近年では、

①ヒューマンサービス労働における作業関連運動器障害の予防

手話通訳者、介護労働者（高齢者、障害児者）、看護師、障害児学校教員など

②振動の人体影響に関する研究

トラクター、フォークリフトなどの産業車両による

全身振動曝露の評価

③障害者の予防医学

肢体不自由者の二次
障害予防

聴覚障害者の受療権
保障

④農村医学

農作業災害の予防

農作業による身体負担評価と作業関連運動器障害の
予防

⑤乳がん・子宮頸がんの予防教育・啓発

といったことに取り組み、その他に、在日外国人の健康問題、女性労働者の健康問題、医師の労働衛生、地域医療の課題（貧困、医療過疎）などが挙げられます。これらは、社会医学フィールド実習として行うことも少なくありません。

第三の特徴は、産業医活動や介入研究において人間工学を重視している点です。労働現場で生じる健康問題の解決や労働負担の軽減に向けての提案には、人間工学的視点が不可欠だからです。

こうした特徴と関連して、スタッフの職種は、医師以外に、工学者、看護師、理学療法士と多岐にわたります。週1回行っているゼミでは、それぞれの立場から意見が出され議論を深めています。平成24年度は、研究スタッフが、埴田、辻村、北原に加え、非常勤講師、大学院生、研究生および韓国からの留学生などを含め全部で10名となり、活気あふれる年になりそうです。

（文責 滋賀医科大・医・社会医学・衛生 北原照代）





私たちの職場 (25) (株) ワコール

産業医 寺澤 嘉之

まずは京都市にあるワコール本社ビルの写真をご覧ください。ビル中央最上部にワコールの社章があり、その斜め右下にピンクリボンのシンボルが掲げられています。そして地上部には2台のバスが駐車しています。右のバスには「AIO」とデザインされています。配布機関紙では、これら全体をカラーでお見せできないのが残念です。

弊社のピンクリボン活動は、2002年から本格的な活動をはじめています。現在、日本人女性の16人に1人がかかると言われている乳がんに対して早期発見・早期治療の支援をこの活動の中心に置いています。

また、弊社は乳がん検診サポート事業も展開しています。この事業の一環として、ひとりでも多くの女性に乳がん検診を受けていただくために、乳がん検診車『AIO(アイオ)』を購入し、日本中を巡っています。

さらに、リマンマ事業により、乳がん手術を経験された方に、美しいボディラインを取り戻していただくためのさまざまな取り組みをしています。その中では、自然な感覚のインナーウェアや水着を開発し、全国6ヵ所のリマンルームでの相談機会を設けたりしています。

ワコール健康保険組合は、被保険者本人約5500人、そのうち女性が約4600人と実に85%を占めています。健保本部は京都市にあるワコール本社内に置かれ、健保職員として採用された女性ばかりの産業保健看護職5名が本社健康管理室に勤務しています。私は本社産業医として、この5名の産業保健看護職と日常の業務を行っています。

業務内容は、多くの事業所と同様に健康診断から始まり、その後の二次健診への助言、特に高血圧、糖尿病や貧血などの慢性疾患に対し、早期発見・早期治療という二次予防に多くの時間を費やしています。メンタル的に不調を訴える従業員については、そのメンタルヘルス不調の原因を詳細に検討し、早期復帰を目指しています。また、全従業員の85%が女性ですので、がんのような悪性新生物については、男性従業員の多い一般的な事業所とは異なった傾向が認められます。例えば、肺がん、胃がん、大腸がんは、女性では全年齢を通じて45歳まで



傾向が認められます。例えば、肺がん、胃がん、大腸がんは、女性では全年齢を通じて45歳まで

に罹患する割合はそれぞれ約3%前後ですが、乳がん、子宮頸がん、子宮体がん、卵巣がんというような女性関連がんは、子宮頸がんの約35%を筆頭に、もっとも低い子宮体がんにおいても約10%の罹患率となります。これは男性と比べて、女性は働き盛りにがん

にかかりやすいことを意味します。このような事情から、特に乳がん、子宮頸がんに対しては、早期発見・早期治療のための取り組みを強化しています。

毎年、弊社本社地区では、乳がんのバス検診を法令健診とは別の日に健保の保健事業として、本社敷地内で実施してまいりました。バス検診のメリットは、検診受診率が高くなるということがいちばんにあげられます。私がワコールの産業医として赴任して以来、約4年になりますが、おかげさまで、乳がんに関しては、不幸な転帰となった従業員はひとりもおりません。このバス検診およびピンクリボン活動が功を奏したと考えています。

一方、子宮頸がんについては、以前から検診受診率が低い状態が続いています。子宮頸がんワクチンの助成なども実施しておりますが、加えて検診受診率を向上させて、不幸な転帰とならないよう対策をとらなければなりません。

では、ここでもう一度本社ビルの写真をご覧ください。乳がん検診車『AIO(アイオ)』の左にもう1台バスがあります。このバスは提携健診機関の子宮頸がん検診車です。本社地区では、今年度から初めて乳がんおよび子宮頸がん同時バス検診を実施しました。この結果、子宮頸がん検診受診者が大幅に増えました。この同時バス検診実施の準備には健保と健康管理室がかなりの労力と費用を費やしましたが、このような取り組みは弊社にとって、間違いなく有益なものになるものと確信しています。



お知らせ

作業関連筋骨格系障害研究会は23年度は開催がありませんでした。

謹告

本年は本部及び地方会役員選挙の年です。

平成23年、24年の本学会年会費が7月31日までに納入されていなければ選挙権・被選挙権が失効します。ご注意ください。

第52回近畿産業衛生学会のお知らせ(第1報)

第52回近畿産業衛生学会を、平成24年11月17日(土)にJR紀三井寺駅から徒歩10分の和歌山県立医科大学保健看護学部で開催します。

一般講演(午前)、シンポジウム、懇親会(午後)などを予定しています。一般演題では昨年から「近畿産業衛生学会優秀演題賞」が設けられました。年次学会賞も設けます。学会で優れた演題を発表した者を表彰するものです。皆様の演題申込と参加をお待ちしています。

【事務局】

和歌山県立医科大学保健看護学部

森岡郁晴(実行委員長:宮井信行)

〒641-0011 和歌山市三葛580

TEL: 073-446-6700 FAX: 073-446-6720

E-mail: 52ksanei@wakayama-med.ac.jp

幹事会議事録

平成23年度第4回幹事会議事録

日時: 2012年2月13日(月) 18:00~20:45

場所: 大阪市立大学医学部学舎 18階会議室

出席: 車谷・清田・圓藤・伊木・植本・大脇・岡田・河合・木村・鮫島・鈴木・埤田・竹村・土手・中西・西尾・廣田・廣部・藤岡・宮下・森岡(順不同・敬称略)

欠席: 伊藤・久保・小泉・夏目・宮上・山田(順不同・敬称略)

1. 審議事項

1) 平成23年度事業報告(案)

車谷会長から資料(3頁)に基づき報告があった。

2) 平成23年度決算報告(案)

清田副会長から資料(2頁)に基づき、督促による会費収入の増額、ホームページ立ち上げ費用の大幅な減額、近畿産業衛生学会開催助成金の寄付金収入による減額等の報告があった。

3) 平成24年度事業計画(案)

車谷会長から資料(5頁)に基づき説明があった。

4) 平成24年度予算(案)

清田副会長から資料(2頁)に基づいて説明があった。地方会費に替えて広報通信費2,000円を正会員から徴収すること(審議事項6)参照)、役員改選費は昨年度からの積立金と併せて80万円計上していること、平成22年度決算時の監事提案に基づき事務局費を10万円増額し50万円としたことなど、新しい提案も含めて承認された。

5) 選挙方法の改正について

土手選挙制度検討委員長から、推薦選挙を省略する改正案が提示され、6月の総会承認を経て平成24年度選挙から採用することとなった。

6) 地方会費の扱いについて

車谷会長から、日本産業衛生学会の公益法人化に伴い地方会費の徴収が困難になる見込みとの説明があった。広報通信費等の名称で同額の2,000円/会員を徴収し、会の運営にあてることが承認された。

7) 次期選挙管理委員について

車谷会長から、半数改選、5年以上の会員歴のある代議員から選出し、委員長は互選で決定することが確認された。

2. 報告事項

1) 近畿地方会「産業看護職実態調査」の調査経過について

大脇担当理事から回答者の基本属性について報告があった。詳細な解析結果は総会および近畿地方学会で発表予定である。

2) 本部理事会の報告

圓藤理事から、利益相反(COI)ガイドライン、全国協議会の予定、地方会への所属規定変更の報告があった。所属する地方会は居住地・勤務先で会員が選べたが原則として勤務先となる。

3) 第52回近畿産業衛生学会(2012年・和歌山)の進捗状況について

森岡郁晴会長から順調に、懇親会費4000円、当日申し込みも受け付けるが事前申し込み制にすることについての提案があり、了解された。ランチオンセミナーは「歯周病」をテーマに企画、引き続きスポンサーは探していただくが、現時点では見つからず実費徴収になる可能性もあるとのことであった。優秀演題賞に加え、特に若手を奨励するために会長賞の表彰を予定しているとの報告もあった。

4) 地方会ニュース発行状況とHP更新状況について

中西担当幹事から5月15日発行に向けて順調に進んでいるとの報告があった。

5) その他

廣部幹事から近畿地方会総会の特別プログラムについて報告があった。

第11回近畿臨床産業医学フォーラム報告

当番世話人：武田和夫

日 時：平成24年2月8日（水）
場 所：ホテルグランヴィア京都
テーマ：脂質異常症



上記テーマのもと、46名の先生方のご参加を得て開催された。今回は過去に脂質異常症を取り上げていなかった事と本年度に動脈硬化学会より新しい動脈硬化ガイドライン2012が発表されるという事でメインのテーマを脂質異常症とした。まず、当番世話人から、テーマの主旨説明を行い、引き続きそれぞれの専門の立場から、話題を提供していただいた。

まず一般講演として、メンタルの話題として、杉本医院からすまメンタルクリニック 理事長 杉本二郎先生からメンタル不調の方の職場復帰や職場適応、就労継続などの復職支援プログラムの現状および、産業医の先生との連携などについてお話を頂き、さらに適応障害の実際の症例を交えて説明いただいた。次に、最近よく話題になる歯周病をとりあげて、歯科医の立場として、京都府立医科大学附属病院 歯科 病院助教 松井大輔先生から、歯周病と生活習慣病の関係について講演頂いた。歯周病は全身疾患（糖尿病、心臓血管系疾患、慢性呼吸器系疾患、骨粗鬆症、低体重児早産等）と関連があり、特に糖尿病とは、相互の状態に影響を与えるリスクファクターであることが知られている。そのことから、歯周病は生活習慣病とも関連しており、京都府立医科大学の歯科で行われた歯周スクリーニングテストとメタボリックシンドローム判定項目（肥満、高血糖）について解説していただいた。

特別講演に関して、みずほFG大阪健康開発センター 所長 廣部一彦先生から2月5日に鹿児島で開催された日本動脈硬化学会診療疫学検討委員会の内容を中心に、現状の日本における脂質異常症の現状、職域における心筋梗塞発症率（サンキュー会データ）、LDL値に境界域の設定、層別化に絶対リスクの利用などを含め2012動脈硬化性疾患予防ガイドラインの主たる改訂ポイント、最後に健診における脂質代謝異常にどう対応するかという講演をいただいた。

発表直後とあって会場からは様々な質問が行われた。特にTCの重要性と現状の検査上での問題点に関しては色々な先生方から現状の問題点が質問に上がり、課題などが討論されて今後の本フォーラムの新しいテーマとしても良いと思われる

本フォーラムで貴重な発表をしていただいた先生方に感謝の意を表します。

最後に本フォーラム開催にあたり事務局として労をおとりいただきましたMSD株式会社様に感謝の意を表します。

日本産業衛生学会

第53回産業精神衛生研究会 開催報告

平成24年3月3日（土曜）に、第53回産業精神衛生研究会（会長 廣部 一彦）が、エルおおさかで開催されました。今回のテーマは、「職域メンタルヘルスの未来展望～変わってゆくもの、変わらなければいけないもの～」で、多様化するメンタルヘルス不調者に対し、我々産業医療職が柔軟に考え方や発想を変え、対応していく工夫が求められている時代の流れを受けたものでした。

午前中は一般演題4題に続き、パネルディスカッションでは「職域メンタルヘルスにおける産業看護職の役割」をテーマに、産業看護職2名と産業医1名による発表と討論が行われました。これからの産業看護職の役割と期待に焦点を絞った内容で、現場の生の声を聞くことができ、明日からの業務に役立つ内容だったと思います。昼食時には研究会としては初めてランチョンセミナーがあり、中部労災病院の芦原 睦先生より交流分析を中心にお話をいただきました。ユーモアを取り混ぜた大変わかりやすい内容で、あっという間に1時間が過ぎてしまいました。

午後からはメンタルヘルス不調者の職場復帰支援をテーマに、特別講演とシンポジウムを企画しました。特別講演は東京大学教授の川上憲人先生に国内外の復職制度と復職支援の詳細なデータを基にしたお話をいただき、特に普段知りえない海外での現状を聞くことができ、大変勉強になりました。シンポジウムでは専属産業医、嘱託産業医、産業看護職、リワーク支援の臨床心理士がシンポジストとして、また精神科専門医と弁護士もコメンテータとして参加して頂き、大変熱のこもった講演や質疑応答が行われました。職場復帰問題を抱えている産業医療職、精神科医、カウンセラーにとって、とても参考になる内容であったと思います。

懇親会にも多くの方が参加され演者の先生方とも歓談されて、1時間30分ほどの時間でしたが、和やかな雰囲気の中で終了することができました。

本研究会には402名（学会員212名・非学会委員190名）と多数のご参加を頂き、本当にありがとうございました。また、最後になりましたが、本研究会開催にあたりご協力を頂きました多くの関係者の方々に心よりお礼を申し上げます。

（研究会事務局
企画運営担当
館 美加）



第17回 近畿産業医部会研修会（案）

1. 日 時 平成24年9月8日（土） 14:00～17:00
2. 場 所 大阪市立大学医学部学舎 4階大講堂
3. 実行委員長 豊川彰博
4. 内 容「メンタルヘルス対策～新たな試み～」
基調講演「健康診断におけるストレスチェック」
講 師 岡田邦夫先生
大阪ガス(株)人事部 健康開発センター
座 長 鍵谷俊文先生
全日空(株)勤労部大阪健康管理センター
シンポジウム「産業現場におけるストレスチェックの実際」～現状と課題～
座 長 萩原聡先生
三菱電機(株)伊丹製作所総務部健康増進センター
豊川彰博
大阪ガス(株)人事部 健康開発センター
シンポジスト
1 森口次郎先生 財団法人京都工場保健会
2 鍵本伸明先生 ナンバかぎもとメンタルクリニック
3 出雲谷恭子先生 大阪市人事室

技術部会からのお知らせ

平成24年度も、総会と講演会や研究会を計画しています。ご意見、要望をお待ちしています。

- 1) 技術部会の会員になろうと思われる方
- 2) 秘術部会の研究会への意見のある方
- 3) 技術部会と共同（コラボ）研究会を実施して見ようと思われる各研究会の担当者
- 4) その他 技術部会への要望などの御意見がありましたら下記にご連絡下さい。

世話役 河合 俊夫 Tkawai@jisha.or.jp



フルーツ大豆バー【SOYJOY】
1本で約35粒の大豆が摂れる大豆の栄養食品【SOYJOY】。大豆タンパク、イソフラボン、食物繊維など、大豆の栄養素をあますところなく摂取できます。しかも、【低GI食品】。ウエストサイズの気になる方にもおすすめです。カロリーをコントロールしたい方には、80kcal（1単位）のSOYJOYもおすすめです。



大塚製薬株式会社大阪支店
〒530-0005 大阪市北区中之島6-20-40
TEL:06-6441-6532

産業看護部会からのお知らせ

1. 研修会のご案内
日 時：平成24年7月21日（土）
13時受付開始 13:30～16:00
会 場：エルおおさか（大阪府立労働会館）南館5階
テーマ：「産業の場における保健師・看護師の専門職としてのリスクコントロールについて」
講 師：近畿大学法学部教授 三柴丈典 先生
2. 近畿産業看護部会員数・本部会員数・産業看護師登録者報告
○近畿産業看護部会府県別会員数（2012年1月現在）
総：458名（保健師 298名、看護師 160名）

府県別	学会員 (保健師)	学会員 (看護師)	学会員 (合計)	看護部会 入会数	部会入会率 (看護/学会)
大阪府	190	109	299	169	57.0
兵庫県	41	21	62	34	55.0
京都府	36	15	51	25	49.0
滋賀県	19	10	29	16	55.0
和歌山県	7	2	9	5	56.0
奈良県	5	3	8	7	88.0
計	298	160	458	256	56.0

○日本産業衛生学会産業看護部会入会者 1,420名
(2012年1月16日現在)

※ 産業看護師登録者数 1,614名
(2012年1月16日現在)

3. 近畿産業看護部会幹事会の構成
部会長（近畿地方会理事）1名、副部会長2名、
会計 1名、広報担当 1名
研修担当 7名、調査研究担当5名、顧問 1名、
監査 2名（合計 20名）
4. 産業看護部会入会する場合の手続き
(1) 日本産業衛生学会入会
(年会費として 10,000円)
(2) 近畿産業衛生学会入会
(活動費として 2,000円)
(3) 産業看護部会入会
(活動費として 2,000円)
※ 会計年度はいずれも3月1日～翌年2月28日
※ 所属・氏名・住所が変更の場合は、必ず日本産業衛生学会事務局まで連絡をお願いします。

会員の異動（敬称略）

<新入会員>

村田 理絵	(財)京都工場保健会
西田 直子	京都府立医科大学医学部看護学科
西村 嘉高	(財)近畿健康管理センター
海老瀬 清加	大阪府警察本部警務部健康管理センター
大谷 由利子	京都府警察本部厚生課 健康管理センター
岡本 るみ子	東宝健保組合 関西健康相談室
柏木 浩和	岩谷産業健保組合
桂 久子	社会医療法人 製鉄記念広畑病院
川村 和子	(株)村田製作所
黒滝 周子	読売新聞大阪本社
小山 道子	(医)微風会 浜寺病院
鈴木 典子	住友金属工業(株)総合技術研究所
鈴木 ひとみ	神戸常磐大学
中村 真土夏	旭化成ホームズ(株)大阪健康管理室
廣田 佳緒利	社会医療法人 製鉄記念広畑病院
藤本 牧子	パナソニック健保組合 産業衛生科学センター
松尾 佳司	松尾医院

<再入会>

野田 博之	大阪大学 公衆衛生学
長谷川 禎子	加古川東市民病院 産婦人科
佐藤 篤彦	(財)京都予防医学センター

編集後記

事業場の健康管理を担当する読者にとって、景気の動向はその質と量を左右するため、気なることです。昨年度は東日本大地震、タイの洪水、ギリシアショックによるEU経済やリーマンショックからの立ち直りの悪い米国経済の影響を受け、国内各社とも業績は低迷しました。2012年度はこの紙面が皆様に届く頃には、回復傾向が明らかとなり、活発に産業保健活動が出来ることを願っています。

木村 隆

編集委員（五十音順）

大脇多美代（編集責任）

河合 俊夫 木村 隆

鈴木 純子 竹村 芳

中西 一郎（広報事務局）

藤岡 滋典 宮下 和久

総会の特別講演・シンポジウムの参加費と認定単位などについてのお知らせ

<参加費>

産衛学会員：無料

産衛学会員で日医認定産業医単位希望者：3,000円

非産衛学会員：2,000円

非産衛学会員で日医認定産業医単位希望者：5,000円

<単位申請>

1. 日医認定産業医単位取得
2. 産業看護職継続教育システムによる単位認定取得

日本医師会認定産業医制度産業医学研修の生涯研修(3単位)を申請中です。

医師の方で単位取得希望者は下記要領にてお申し込みください。

【申し込み方法】様式自由

①6月16日（土）特別講演・シンポ参加希望、②氏名（ふりがな）、③連絡先住所・電話・FAX、④所属医師会名⑤日本産業衛生学会員であることを明記

①から⑤を明記の上、日本産業衛生学会近畿地方会事務局あてに、FAX（0744-22-1801）でお申し込みください。

【受け付け開始】

5月21日（月）から開始し、定員（100名）になり次第締め切ります。

FAX受信時間帯 9時～17時（但し、土曜日および日曜日を除く）

【諾否の連絡】

受講票送付にて回答とし、お断り（定員超過）の場合はFAXでご連絡します。

※産業看護職継続教育実力アップ単位取得の申し込みは、当日産業看護部会受付で整理票を渡しますので、事前申し込みは必要ありません。

